

JASM進出前後の道路整備の状況



特集 セミコンテクノパーク周辺 加速化する交通渋滞対策



建設課 建設係 ☎(232)2115

町では、従来から課題であった交通渋滞に対して、TSMC(JASM)進出により新たに創設された交付金を活用して、国・県と連携しながら過去に例を見ない速さで道路整備などの対策を進めています。これらの道路は、おおむね5年以内に完成する予定です(各道路の詳細は4~5ページをご覧ください)。
また、短期的には、県道大津植木線への車両感知器の設置や通学路危険箇所の対策を行いながら、企業とも連携し、セミコン通勤バスの拡充や、時差出勤・完全フレックスタイム制の導入による通勤時間の分散など、ソフト面の対策も進めています。



セミコンテクノパーク周辺の交通渋滞

従来から課題だった交通渋滞

町では、人口増加や企業進出、商業施設の出店などにより、JASM進出前から交通渋滞が課題としてありました。そのため、セミコン通勤バスや町内巡回バスなどのソフト面の充実を図りながら、ハード面では、県と連携し菊陽空港線延伸道路の整備を進めてきました。また、国においては、中九州横断道路大津熊本道路の「合志~熊本」間の整備を令和2年度に事業化し、工事に向けた準備を進めてきました。

しかしながら、道路整備には多くの財政負担と時間を要するため、限られた予算の中では、事業促進に課題がありました。

JASM進出により加速化する交通渋滞対策

このような中、令和3年11月にJASMの進出が決定し、町は、令和4年4月に、県立ち合いの下でJASMと工場立地協定を締結しました。

JASMの進出により、町や県、ひいては国全体の経済発展が期待される一方、従来から課題であった交通渋滞のさらなる深刻化が懸念されるため、令和5年6月、町は、福島議長および中村県議の同席の下、合志市と連名で、県に交通渋滞対策の強化を要望しました。

その後、同年8月に、県から国に「半導体関連産業の集積に伴うインフラ整備への財政支援(1,140億円)」を要望しました。また、同年10月には、首相官邸で行われた「国内投資拡大のための官民連携フォーラム」で、蒲島県知事が財政支援の要望に関するプレゼンを行いました。

これにより、同年11月に成立した国の補正予算で、国家プロジェクトである半導体な



合志市と連名で県に交通渋滞対策の強化を要望

どの生産拠点の整備に伴い必要となるインフラ整備を支援するための「地域産業構造転換インフラ整備推進交付金」が新たに創設され、町は、この交付金の対象地域となりました。

このように、従来の予算枠とは別枠で財源が確保されたことから、これまでの常識では考えられない規模とスピードで道路のネットワーク整備が進んでいます。いわば、国家プロジェクトであるJASMの進出により、従来から行っていた交通渋滞対策が加速化している状況です。



蒲島県知事が岸田首相に要望書を手渡した



令和5年10月の官民連携フォーラムで、岸田首相が「必要なインフラ投資に対応する仕組みを創設する」と発言

3 合志ICアクセス道路の整備

令和10年度
一部
完成予定

JAS M進出後に決定

合志ICアクセス道路は、国が整備する中九州横断道路大津熊本道路へのアクセスを強化し、物流や人流を効率化・円滑化するための道路です。道幅25.75mの4車線を予定しています。ルートは、県道新山原水線と町道下原堀川線の交差点から北へ進み、県道住吉熊本線に接続する合志ICまでの全長約3.5kmです。県道住吉熊本線は拡幅し、一部区間をバイパスとして整備する計画としています。



整備後の合志ICアクセス道路のイメージ

4 国道57号と町道南方大人足線の交差点改良

令和6年度
完成予定

JAS M進出後に決定

国道57号と町道南方大人足線との交差点は、国と町が連携して整備します。

国道57号は、朝の交通渋滞対策として、国が約400mの左折専用レーンを整備します。

また、町道南方大人足線は、夕方の交通渋滞対策として、国道57号への右折レーンを1車線から2車線に増設します。



改良後の交差点のイメージ

5 中九州横断道路の整備

早期完成
目指す

JAS M進出後に加速化

中九州横断道路は、交通渋滞緩和や、半導体関連企業などの産業活動への支援が期待される自動車専用道路です。セミコンテクノパーク周辺では、大津熊本道路と大津道路の整備が進んでいます。

大津熊本道路は、「合志～熊本」と「大津西～合志」の2事業に取り組んでいます。令和2年度に事業化した「合志～熊本」は、令和5年度に一部工事に着手しました。「大津西～合志」は令和4年度に事業化し、測量・調査・設計を行っています。

また、大津道路「大津～大津西」についても、令和6年度に事業化しました。

第3回交通渋滞実態調査を行いました

昨年4月に引き続き、4月22日と23日に、セミコンテクノパーク周辺、菊陽バイパス、光の森周辺などの交通渋滞が発生している交差点20カ所で、町職員51人を動員し、朝夕の通勤時間帯を対象に交通渋滞実態調査を行いました。

今後も継続的に調査を行い、調査結果は県や近隣市町村に情報共有しながら、現在進めている道路整備の効果や課題を評価し、今後の取り組みに活用します。

なお、調査結果は、取りまとめ次第町ホームページに公表します。



各道路の整備計画

1 都市計画道路菊陽空港線の延伸

令和8年度
完成予定

JAS M進出後に加速化

町内空港周辺を南北に走る菊陽空港線は、JAS M工場前を走る県道大津植木線まで延伸し、2車線で整備します。

県が国道57号との交差点から県道新山原水線までの約1,170mを、町が県道新山原水線から県道大津植木線までの約680mを整備する予定で、令和5年から一部工事に着手しています。



延伸後の菊陽空港線のイメージ

2 県道大津植木線の多車線化

令和10年度
完成予定

JAS M進出後に決定

JAS M工場前を走る県道大津植木線は、交通渋滞対策の基幹となる道路であるとともに、世界有数の半導体企業集積地の玄関口にふさわしいシンボルロードとしても位置付けています。

国道325号の大津町室北にある交差点から合志ICアクセス道路までの約4.7kmを、道幅34mで4車線化する計画です。なお、今後予想される企業の集積や交通渋滞に柔軟に対応できるように、6車線化も可能な道幅にしています。これに加え、農耕車両などの出入りを考慮し、副道の整備も予定しています。

また、将来的な交通量を視野に入れ、区間内にある町道南方大人足線との交差点には、町道南方大人足線が上を跨ぐ橋を整備します。菊陽空港線との交差点には、県道大津植木線が上を通る立体交差を造る計画をしています。合志ICアクセス道路との交差点にも、県道大津植木線が上を通る立体交差を整備します。



県道大津植木線4車線化のイメージ



町道南方大人足線との立体交差イメージ



菊陽空港線との立体交差イメージ



合志ICアクセス道路との立体交差イメージ